

ランチョンセミナー18

Luncheon Seminar 18 (LS18)

日時 2026年 7月24日(金) 11:50~12:40

会場 I会場 幕張メッセ

国際会議場 1F 105

〒261-8550 千葉県千葉市美浜区中瀬2-1

“続けられる治療”を目指す 睡眠時無呼吸症候群診療

— CPAP・減量・睡眠習慣改善によるQOL向上を目指して —

座長 佐田 誠 先生

国立循環器病研究センター
呼吸器・感染症診療部 医長

演者 立石 知也 先生

東京科学大学 快眠センター センター長
統合呼吸器病学分野 特任准教授

本セミナーは整理券制ではありません

直接会場にお越しいただき、先着順にご入場いただきます。
なお、お弁当数・座席数には限りがありますので予めご了承ください。

共催: 日本睡眠学会第50回定期学術集会 / 第25回日本睡眠歯科学会学術集会
第7回日本睡眠検査学会学術集会 / フクダ電子株式会社

ランチョンセミナー18

Luncheon Seminar 18 (LS18)

“続けられる治療”を目指す 睡眠時無呼吸症候群診療

— CPAP・減量・睡眠習慣改善によるQOL向上を目指して —

立石 知也

東京科学大学 快眠センター センター長／統合呼吸器病学分野 特任准教授

睡眠時無呼吸症候群 (SAS) は、日中の眠気や集中力低下のみならず、高血圧、心血管疾患、交通事故リスク増加などを介して健康寿命を脅かす重要な疾患である。持続陽圧呼吸療法 (CPAP) はSASに対する標準治療として広く普及しており、症状改善や予後改善に高い効果を示している。一方で、マスク違和感や鼻症状、心理的負担などから一定割合の患者で不耐・離脱が生じるほか、使用時間や使用日数が十分でない症例も少なくない。CPAPアドヒアランス向上のためには、患者背景に応じた介入や継続支援が重要と考えられるが、その有効な戦略に関するエビデンスは依然として限定的である。

また近年では、「CPAPから離脱したい」「より負担の少ない治療を希望したい」といった患者ニーズも増加している。そのため、口腔内装置 (OA)、体位療法、肥満症に対する減量介入、睡眠習慣改善、舌・口腔周囲筋トレーニングなど、多角的なアプローチを組み合わせた包括的診療の重要性が高まっている。本講演では、CPAPアドヒアランス向上の工夫や実臨床における課題を概説するとともに、CPAPにとどまらない全人的なSAS診療について考察したい。